



## 中山 厚

(生)大正15年8月15日生  
 (職)駿河銀行湯河原支店長  
 (住)静岡県駿東郡清水町  
 伏見311  
 (学)県立沼津中学校卒業

清水真弩支店長の後任として着任された。夫人と御子息二人の円満な御家庭である。

駿河銀行の支店長さんというと、この地方では、かたいこと通っている。初代頭取の岡野さんが、駿河銀行マンを自分の思った通りの型につくることを御考えになったのであろうか。中山さんは謹厳な君子の風彩をかねそなえられる。支店長さんがじきに転任になるのが残念であるので、中山さんには長く湯河原支店に居られるように願いたいものである。(林 記)



## 及川 修助

(生)大正5. 8. 29  
 (職)菓子製造  
 (勤)(株)文六総本舗  
 (住)湯河原町土肥4-10-6  
 (役)取締役社長  
 (宅)湯河原町土肥4-10-6  
 (学)須賀川商業学校卒  
 (電)(自)62-3330

### 1. 見合結婚

妻 な か (52)  
 長男 毅一郎 (29) (株)文六総本舗専務  
 同妻 吉 江 (29)  
 孫男 毅 文 (5)

### 2. 視察旅行・演劇鑑賞

4. 神 静 土産品卸業組合理事  
 (前)神奈川県菓子工業組合湯河原支部長  
 (前)小田原食品衛生協会理事

5. 希望に起き観喜に働き感謝に眠る。このような人間の在り方をしたいものと毎日を望んでいる。

6. 若い時代はワンマン亭主関白で何事もハイの一言。返答無用で操縦してまいりましたが、子供達が生長するにつけ戦況は正に逆転し、今こそ男女同権を主張する次第。



## 大久保 甫

(生)大正11. 1. 26  
昭和20. 12. から  
湯河原に住む様になる

2. ゴルフ・旅行であるが、ゴルフの方は……。
3. 20年間無事故運転であることが自慢の第一。  
最もうれしいことは大東亜戦でニューギニアに転戦したが  
終戦は内地だったのでよかった。  
もっとも恐ろしかったことは戦争である。
5. 分相応という言葉を書右の銘としている。
6. 夫唱婦随を守り家庭も無事な運転をつづける。



## 笹子 定雄

(生)大正15年11月3日生  
(職)横浜銀行湯河原支店長  
(入)昭和26年4月  
昭和44年7月  
湯河原支店長  
(宅)藤沢市西富1-1-11  
(学)早稲田大学  
第一学部卒

1. 妻 智寿子 母 サヨ  
長女 真弓 長男 昌幸

いつもにこやかな浜銀の支店長さん、銀行の扉から這入ると若い女子行員がずらり、美しいひとみのお嬢さんたちがきびきびと事務をとっている。その奥に支店長さんが大きい机におられている。なんとなくうらやましくなる。然し支店長さんはそれどころではない。笹子支店長さん御自愛の程を。(林 記)



## 杉山 実

(生)大正6. 1. 1

(職)石油販売

(入)昭和37. 4. 20

(勤)湯河原燃料企業組合

(#)湯河原町宮上348

(役)代表理事

(学)県立小田原中学校

(電)0465-62-4131

1. 戦時中であり最も死亡確率の高い戦車将校を承知の上で嫁いで来たから覚悟は相当なものと感じたり。  
両親・妻・長男夫妻・内孫・次男(大学在学中)
2. 詩吟。下手な横好きで詩を作ること。  
スポーツ(最近は見ることばかり)  
道楽とは道を楽しむこと。道のつく楽しみを列挙すると吟道、酒道、スポーツ道、色・欲道は駄目?
3. あっても言わぬのが自慢?  
やはり生死の境にあること(戦中)いづれ元に帰る事を知りながら。
4. 湯河原町教育委員、町体育協会副会長、小田原バスケットボール協会会長(元陸軍大尉)
5. 「縁の下の力持ち」「感謝」  
\*仕事を通じて社会に奉仕出来ることが一番良い。
6. 天衣無縫、ガラス張り
7. 若しも私がこれから生れて来るならば今迄の経験を生かして悔のない人生を送りたい。
8. 私共の年齢になると世間並、世俗的で無為に過してしまうクラブに入っていることで幾分でも読んだり聞いたり話したりで勉強になるそれがロータリーの特典かと考えてもいる。



## 菅原 宏

(生)大正14年8月8日生

(職)三桝屋旅館社長

(宅)湯河原町宮上261

菅原さんは湯河原RCが発足した翌年に大久保さんと一緒に入会されたベテラン会員である。宮上理想境に旅館三桝屋を経営なされている。湯河原旅協組の枢要な役員として、組合の発展のため黙々と努力なされている。よい御家庭にめぐまれて御幸福である。これからの御活躍を期待している。(林 記)



空本善吉

(生)昭和10. 8. 25

(職)税理士

(入)昭和46. 5. 7

(勤)空本税務会計事務所

(#)湯河原町土肥5-1-15

(電)62-5912

(宅)湯河原町宮上394

(電)62-2027

(学)早稲田大学

1. 家庭では比較的ワンマン  
見合結婚  
妻 依子(31)  
長女 亜希子(5)  
長男 善孝(2)
2. 趣味は釣・旅行。道楽はへぼマージャン
4. 東京地方税理士会小田原部会幹事  
社団法人小田原法人会相談役  
小田原地方青色申告会参与
5. 納税者の権利を擁護し、中小企業の発展に微力ながら貢献したい所存です。
6. 妻の機嫌の悪い時には、なるべく無言の行(沈黙は金なり?)



高橋 実

1. 昭和36年5月10日。恋愛の末しぶしぶ結婚をする。  
家庭には、日本一働きものの母と妻、そして、子供は3人とも男
2. 囲碁・マージャン他、ギャンブルなんでもコイコイ
4. 湯河原町消防団第1分団長  
観光旅館従業員受協理事  
湯河原中学校同窓会副会長  
湯河原町防火安全対策協会幹事  
湯河原温泉観光協会宣伝副部長  
湯河原温泉旅館組合理事
5. 従業員の面倒を見る事が、事業の繁栄と考える。
6. たぬきときつねのだまし合いの中に、「おい」「うん」の話し合い。
7. 若しも私が女なら、魚判の実さんの様な人と結婚したかった。



高橋 柳吉

(生)明治38. 7. 4

現住所・湯河原町福浦  
329番地に生れる。

2. スポーツ・旅行
5. 他人に迷惑をかけること
6. 最初から妻に白旗をかかげることが家庭円満法と思っている。



八 亀 広 蔵

1. 昭和7年3月5日。男2人 女1人 孫2人ずつ6人。
2. 旅行・鮎釣り・スポーツ・軟式テニス  
日本各地の観光地の旅行
4. 昭和26年から1期湯河原町助役観光協会会長  
西相信用金庫理事  
湯河原町体育協会会長下郡体育協会会長
5. 別になし。
6. 別になし。
7. 別になし。



## 八 亀 昌 美

(生)大正12. 5. 1  
 (職)日本料理  
 (入)昭和37. 4. 20  
 (勤)(資)亀屋旅館  
 (〒)湯河原町宮上517  
 (役)代表社員  
 (宅)湯河原町宮上517  
 (学)関東学院高等商業部  
 (電)(自)62-2145

1. 元陸軍少尉。家庭にあつては極めて暴君。  
見合結婚  
妻 幸 恵 (46) 父 直次郎 (75)  
長男 雅 之 (21) 母 ム メ (74)  
長女 朋 子 (16)  
次女 敦 子 (14)
2. 道楽はマージャン他ギャンブル一切極めて低級なり  
酒量は人後に落ちぬが無芸無能。
3. 髪の毛はボマードの会社よりいつも苦情来る程ボサボサで  
野暮そのものなり。
4. 湯河原温泉旅館組合長  
神奈川県旅館連盟副理事長  
横浜地方裁判所調停委員  
前・湯河原町議会議員
6. 妻操縦法は、嫉妬心が強いので、真面目にするにしかずと  
みつれたり、誰です? 「見つからなければ適当に……」な  
ど云う人は。



## 八 亀 民 雄

(生)大正5年5月26日  
 (職)八亀商店社長

小田原中学校卒業以来家業に従事。杉山実君と同級、二人で町の体育界を背負う、八亀広蔵体協会長をささえる一人。

役職は現在数えきれない程で、いづれも大事なポストである湯河原町議会議員であり、湯河原町の酒店組合長として町の酒屋さんの面倒を見る、よくこなすものと感心している。

御両親とも健御在、よい奥さんとの間に間違える程よく似た優秀な息子さんが二人、いづれも家業に活躍されている。

家業は酒商だが、農業部もあつて蜜柑園を経営。これはお父さんが御元気で働かれているが、だんだん御年をめされるので相当に手伝わなければならない。

円満な御家庭で何よりと思う。益々御多幸を祈る。(林記)



吉光 関 爾

1. 結婚式 昭和23年1月3日郷里で挙げました。妻の名は久子。お客様は20人位で諸経費合せて900円位。記念写真もありません。郷に老母(83)がおりますが、現在兄の長男が世話をしています。次男の私は長男21才、長女18才等と共に神奈川に根をおろしました。
2. 釣。やまめ・あゆが主ですが、しんどのいでだんだん花でもつくるかなあと考えています。長唄が少々。
3. 何でも直すのが得意。柱時計等はずして掛けただけで動き出します。一番恐ろしかったのは機関銃で掃射を受けた時それより交通のお巡りさんの方かな。
4. 校医。ずっと前からそれだけ。
5. これがまだもったことのないものの一つ。
6. 大概意見は合うもので、合わない時にはこっちで合わす。こっちが無理ならあっちで合わしてくれませう。
7. 若も私が日本国総統であつたら、過密地域の電力、ガス、水道の供給を制限し、乗物の運賃は遠距離を割高にし、土地の評価額を思いきり下げ、減税等考えないで、多く入った分は老人の年金其他社会福祉に使い、公営アパートは電力事情に応じた場所に各種建設し、土地の評価額に沿って安く賃貸する。借り手がなくともしばらく放つて置くと、目ざとい企業がやつて来てアパートはにぎやかになり25万都市が出来ると云う寸法。時には老令年金で生活する老人の25万都市が出来るかかも。



吉田 充

1. 見合結婚。  
妻 孝子 (38)  
長男 裕 (13)  
次男 稔 (10)
  2. 読書・つり・マージャン・ゴルフ いづれも下手の横づき
  4. 日本臨床外科医学会評議員  
神奈川県消化器病学会評議員
  5. 和光同慶
- (生)大正14. 2. 25  
(職)医 師  
(勤)社団法人中山会  
湯河原胃腸病院  
湯河原町土肥4-3-1  
(電)(病)62-7181  
(役)院 長  
(宅)湯河原町土肥5-16-7  
(学)千葉大学医学部  
(電)(自)62-7532

## 編 集 後 記

いろいろの事情で発行がすっかり遅れてしまった。  
発行中止の意見もあったが、10年という歳月は誰にとってもとおといものであるし、会としても何等かの形で記録としてのこす必要があるので会員諸氏の諒解を得て発行出来ることになったのはうれしい。何分にも不慣れのために出来栄えはよくはないが、一つの記録として御手許に置いていただきたい。重ねてかくも遅延したことを深謝する次第である。

昭和47年 6月

八 亀 昌 美

林 武 蔵

### 編集委員

八	亀	昌	美
林		武	蔵
稻	葉		隆
浅	田	真	章
西	山		清
伊	藤	邦	彦
春	宮	寛	治
空	本	善	吉